

## EU統合と現代ヨーロッパ企業経営の変化

EU Integration und die Entwicklung des gegenwärtigen Unternehmens in Europa

総括研究員：遠藤一久

分担研究員：石原肇 川口八洲雄 中西基

### 本共同研究の計画

(その必要性)

- (1) 実用性が高く、かつ社会的ニーズの大きい総合的課題である。わが国において社会的に極めて関心が高く、実業界にも益するところは大きい。
- (2) 学界において注目されている重点的総合研究課題である。社会科学の各学界で関心のある課題である。
- (3) 新規性または発展性がある総合研究課題である。現在、極めて新規で、今後の展開が注目されている。
- (4) 将来性のある萌芽的総合研究課題である。このテーマは現在、学問的によく緒についたばかりで、今後の展開が期待される。
- (5) 学際的領域にある総合研究課題である。広く社会科学各領域の学際的共同研究を期待することができる。
- (6) その研究課題に興味を持つ研究者が本学に多くいて、豊富な研究成果が期待される総合研究課題である。本学には、直接、間接にヨーロッパの社会、経営・経済を研究対象にしている研究者は多い。

(その目的)

- (1) 本総合研究課題の目的と意義－1992年のEC市場統合の現実化とその後の展開の研究は、我が国の実業界および学界において、その及ぼす影響からして、避けて通ることのできない重要課題である。さらに歴史的にみても、EU統合は、極めて興味深い問題である。とりわけヨーロッパの企業経営が、EU統合のなかで、どのような変化を見せているのかという課題を解明することの現実的、学問的意義は、極めて大きい。
- (2) 本総合研究課題の将来への展望－上述の意義を有する本総合研究課題は、早急な研究の必要に迫られているテーマである。しかも、この課題は、総合研究によって実り多い成果を期待しうるものである。将来にわたってEU統合の及ぼす影響は、ますます大きいものとなるのは確実であり、本研究の意義も高まるものと思われる。

なお、研究課題に関する最近の研究業績は次のとおりである。

- (1) 石原 肇「現代会計情報論」森山書店、1993。
- (2) 川口八洲雄「1985年貸借対照表指令法における商業帳簿の記帳に関する諸規定」『産学雑誌』80号、1990。
- (3) 中西 基「現代会計情報論とコンピュータ実務」大阪産業大学論集74号、1989。
- (4) W. フレーリックス著、遠藤一久訳・編「EC統合と現代ドイツ経営経済学」
- (5) 宮上一男、W. フレーリックス監修「現代ドイツ商法典」第二版、銀行貸借対照表を含む(訳者・遠藤一久、石原肇、川口八洲雄、鈴木義夫、千葉修身)

## 共同研究の進捗状況の総括（中間報告）

〔1994年度〕

本総合研究課題の目的についての意思統一（討論）を行い、研究会を開催し、本年度の研究目標を、設定した。EU統合の現状をまず分析した。

## 今後の研究計画

〔1995年度〕

前年度に引き続き、EU統合の現状を分析すると同時に、ヨーロッパ諸国、とりわけその中心的存在であるドイツの企業経営の変化を解明する。

〔1996年度〕

研究成果のまとめにかかる。できれば、一書にまとめて公刊するか、各人の論文の形で公表する。